

まだ遅い

葉月 一郎

え・小西保文（題字も）

玉 碎

一つの会社だけ取り上げて攻撃するのは穏当ではない。

原稿の内容自体も、激しすぎる……。

本社側が説明した中止理由は、この二つだという。

「こんな理由は、要するに、いいがかりじゃないですか。あまりにも薄弱すぎますよ」

松岡記者が、最初に反論の口火を切った。突撃型の正義派らしい興奮ぶりが、その口調にも噴き出している。

「まあ、待て」

硬い表情を崩さずに、石津支局長は制した。

「君と同じ疑問や不満を、おれも感じた。だから聞いてみた。しかし、本社側は、それで充分だというんや。そういう前例のないキャンペーンは、今の段階では早い。公害をなくしようという情熱はわかるが、カドが立ちすぎる……と、そんな表現やったな」

「支局長」



（あらすじ）神戸に君臨する大企業、兵車製鉄（兵鉄）の公害をなくするため毎朝新聞神戸支局がキャンペーンを企画、取材をすすめていた。昭和四十五年秋のことだ。

怠惰な日常生活の中で仕事への情熱を失っていた戸波峻記者も石津支局長に誘われて参加する。たまたま旅客にからまれていたところを助けてやった兵鉄秘書課の細川亜紀子と親しくなり、亜紀子は会社首脳の新開対策などを戸波に知らせて協力する。

兵鉄の和久井社長らとの会見も実現するが、社長らは高姿勢の答弁を繰り返す。花房総務部長を中心に新聞社工作をすすめる、広告の掲載もとりにやめる。また亜紀子を工場勤務に配置換えする。

かつて戸波の書いた記事のために職場を追われた堂本俊夫という男が交通事故に遭う。病室にかけつけた戸波を頼のしのぶは「あなたのせいだ」と激しく責める。その夜、支局長は本社から呼び出しを受けた。戸波や八木沢記者の予想通り、それはキャンペーン記事の掲載中止命令だった。翌日の緊急部会で、それを支局長は全員に告げる。

八木沢が手を挙げて発言を求めた。

「本社、本社、といっておられるけど、一体、そういう指示をしたのは、本社の誰なんですか」

それが聞きたい——戸波も耳をすました。

支局長は、しかし、軽いまばたきだけで、その質問を肩透しした。

「相手は複数や。そう思ってもらえばいい。編集局の幹部たち、といえはいいのかな」

「業務局——つまり、広告部あたりの意向もふくまれているのでしょね」

「……」

支局長は、黙って、タバコに火をつけた。鉛のような疲労のいろが、その横顔に浮き出ている。

松岡が、くい下がった。

「無条件中止、ということですか。例えば、一部かきかえるとか、取材しなおしたら、何とか掲載してもいい、という含みがあるのかどうか……」

「ちょっと待ってくれ」

さえぎるように口をはさんだのは教育担当の木曾記者だった。支局の職場委員、つまり毎朝新聞労組大阪支部神戸分会の闘士でもある。

木曾は、まるで労組の代議院会で発言するように挙手をしてから言葉をつづけた。

「掲載してもいい、という表現は適当じゃない。われわれが書いた原稿は、のせるのが当然であり、のせていただくというような卑屈な気持は捨てるべきです。そういう観点から分析すると、こんどの本社の措置は、明らかに政治的な弾圧といえるのではないでしようか」

支局長の返事は、なかった。

木曾の主張を支持する空気と、組合がらみの意見にシラけたムードとが、微妙にまじわるのを戸波は肌で受けとめる。

木曾は、いい出したら止まらない感じで、つづけた。

「さらに付け加えるとですね、これは会社側が兵庫製鉄という大資本と結託して、われわれおよび公害に苦しんでいる読者市民の訴えを闇から闇へ葬ろうとしていることになりはしませんか」

「……」

「向こうが力で弾圧するのなら、われわれも今度のシリーズを町の印刷屋で刷ってでも読者に届けるべきだ。ほ

くは、そう思うんです」

「ちょっと待ってくれよ」

じつと無言だった泉田次長が、はれぼったい目で木曾を一べつしてから口を開いた。

「これは組合問題じゃない。もつと新聞というものを、みんなで考えようというのならいいが」

「もういいよ」

悲鳴のような声が、した。

支局長だった。

その唇が、かすかに震えているのを戸波は見た。

「議論がムダやとはいわん。しかし、とにかく掲載は取りやめと決まった。それが、本社とおれとの間の結論や。不満はあるやろ。おれもある。しかし、もう決まっしてしめたことや。黙って了解してくれ」

急に言葉を断ち切ると、支局長は視線をひとりずつの顔に移した。

ひごろの傲慢さは影もない。かすかに、うなづくように首を上下動させながら、まるで詫び入るような表情で

「おれから言い出しておきながら、こんな結論になって

……」

あとは聞きとれなかった。

申し訳ない、といったのか。口惜しいと洩らしたのか。

部屋の空気が、冷えた。満ちていた潮が一気にひいて、そこに生まれた空白をどう埋めたいのかと戸惑うような雰囲気でもある。

「中止になった本場の理由は、何なのか、支局長自身どう判断しているのですか」

八木沢であった。

動揺も怒りにも無縁の表情で、ゆっくりと質問をつづけた。

「それを聞かないと、ひきさがれないって感じなんですよ」

全員の視線が、一斉に支局長に注がれた。

石膏像のように、支局長は動かない。表情は凍えたままである。

「噂のように、兵庫製鉄から強い圧力があつたのか、それとも、いわゆる編集局幹部の全く自主的な判断なのか、その点だけでも明らかにしていただませんかねえ」

八木沢は、再び食い下がってみせた。

支局長が本社に抵抗したって、おれはついて行かんぞと、昨夜あれほど公言していた八木沢でさえ、こんなに「本当のこと」をつきとめたがっている。

（みんな、新聞記者やなあ）

ボツでもいい、中止もわからぬでもない。だが、その理由がこの程度では、なんとも納得しかねるではないか……。

支局長の、これが平均的な気持ではなからうか、と戸波は思う。

だが、自分でいい出し、部下をここまで引っぱってきた指揮官が、率先して無条件降伏をするというのは、どうしたことなのか。「黙って了解しろ」などといっても、無理ではないか。

八木沢の質問は、そういう一同の心理を目ざとく汲み上げて、ぶつつけたものであろう。

しかし、支局長は一言も発しなかった。疑問と非難のいりまじった視線を浴びながら、微動もしない。

その瞳が、焦点を失ったまま、机上に注がれているのに戸波は気づく。

「じゃ、おれが説明しよう」

突然、といった感じで泉田次長が乗り出した。

「立场上、支局長としてはいいにくい面もあるだろう。

おれは昨夜、一緒に本社へ呼ばれた。本社側とは、ごく一部を除いて、支局長と二人で話を聞かされてきた。

で、まずまず真相に近い話ができる、と思う」

論客らしく、一息おくと、泉田は部下の顔色をすばや

く観察する余裕を示した。おのれの方へ、全体の流れが集中してくる気配をつかんだとみてか、再び口をひらいた。

「結論からいうと、兵庫製鉄から何らかの申入れがあつたかどうかは、わからない。本社側の、具体的にいえば地方版編集長、地方部長などに、その点を聞いてみたが、彼らは否定した。しかし、その段階で粘っているうち編集局次長がやってきて、同じように否定した。

外部の圧力で左右されるはずがない」と、額に青筋立ててまで強調した。その時点で、少なくともおれ自身は圧力がなかった、と判断した。なぜなら、単なる地方版の連載記事に、編集局長室の幹部までが乗り出してモノをいうなんてのは、実は異例のことなんだ。そういうものもしさが、かえって圧力の存在を裏付けていると思つたわけだよ」

「編集局次長というと、守野ですね」

戸波は、はじめて口を開いて聞いてみた。

守野なら知っている。経済部出身で、局内ではタカ派で知られた幹部である。

泉田は軽く肯くと、前夜の模様を思い浮かべるように宇宙をにらんだ。

「守野——経済部——兵庫製鉄幹部という図式なら誰でも考えつく。しかし、兵鉄が新聞社に何らかの申入れをすること自体は、責めるべきじゃない。企業防衛として、むしろ当然だともいえる。問題は、仮りに申入れがあつたとしても、その注文を受け入れたトップの、つまり編集局長室の姿勢だ。おれたちがホコ先を向けるとすれば、その辺じゃないかな」

「では、誰が、掲載とりやめの判断をしたのか。ボツにしろというボタンを押した直接の責任者は誰なのか。その辺は、わかりませんか」

八木沢が、質問を振り出しに戻した。

泉田は、ここで初めて石津支局長の表情をうかがう気配をみせた。それは、しかし一秒の何分の一か、電光の

ような速さといえた。

支局長は、先ほどの姿勢のまま、視線を泳がせていた。彼自身の意志や意向など、とうてい読みとれないほど、それは茫洋としていた。まるで「ひとごと」のように「会議の進行を傍観しているようにもみえた。

一呼吸おくと、泉田は八木沢と、そして戸波を見た。灼けるような熱いものが、その視線にあった。

「守野編集局次長だろうな」

さらに一呼吸おくと、こんどは一気につづけた。

「あの地方版編集長に、そんな見識はない。せいぜい、ご進上と上へ相談に行く程度さ。地方部長は、まあ曲者だからな、シッポはつかまさんだろうが、独自に判断する度胸もないさ。われわれが徒党を組んで突き上げたり、労組の問題にされたら困ると思ってるだろうよ。だ



から、ま、守野主犯説をとらざるを得ないってとこさ」戸波は、内心、舌を巻いた。

一番に逃げをうつか、少なくとも支局長に押しつけて「自分の城」に閉じこもると予想していた泉田が、内輪とはいえ公式の席で、こんなに明快に名指しで解説してみせるとは……。

いつか、同じ社内、しかも友人でもある広告部次長に質問されて「兵鉄がらみの記事なんか、やっていない」と、肩すかしをくわせたときのことを思い出す。

ドライで、クールにみえて、おのれの仕事についてはかたくななまでの純粋さを残している副指揮官――。

前夜の「待ってましたと目に涙」という一言は、むしろ「涙」にポイントを置いて解釈すべきだったのかもしれない。さきさきの情勢を判断して、なんとか危機を避

けるすべはないかと願う屈折したところが、あの一言になって飛び出したのかもしれない。

「だけど、編集局長室の判断ということになると、事態をひっくり返すのは非常に困難だ。向こうさんの挙げている理由は、たしかにいいがかりさ。しかし、そういう原稿の評価なんてものは、しよせん主観だ。上がダメといえはダメ、ボツだと決まればボツ、そう

いう宿命を持っているんじゃないかな。ひごろは、この支局でだって、君たちもそれをイヤというほど感じさせてるだろ」

「しかし、ダメとあきらめてしまうのは、敗北主義じゃないですか、もう少し、たたかう手段を考える余地はないのですか」

木曾が、むし返しの意見を叩きつけてきた。が、それが終らぬうちに泉田の声がかぶさった。

「敗北じゃねえ。ゆうべ一晩中、たたかったんだ。ありとあらゆる方法を支局長と二人で使ってみた。編集局長にも直訴したんだ。しかし、まあ、えらい人は一本だからな、突き崩せなかった。同じことを、君らがやっても、おそらく無駄だろう。いや、ヘタすると、けが人が出る。だから、この際、一応はホコをおさめて、例の原稿は手元で暖める、時期を待とうと、それが支局長とおれの結論だ」

なんということだろう。

この二人が、本社にまるめこまれたのか、力関係で屈服させられたのか、それはわからない。が、結果だけでモノをいえば「負けた」ことに変わりはない。

相手は兵庫製鉄という大資本であり、社のトップ、つまり権威、権力でもあるのだろう。戦争中によく使われた「玉砕」という単語を戸波はふと思ひ出した。

「玉砕」には悲壮感があり、センチメンタリズムも漂う。そういう潔癖な感傷の中に、取材チーム全員がとっぷり浸ればいいのかもしれない。

ふと八木沢と目があった。

複雑な、淀んだ瞳のいろだった。

支局長に殉じるか、さっさと捨ててゆくか、未明のスナックで議論しあい、果てはケンカ別れのように終わったのがウソのような……。

肝心の支局長らは、すでに無抵抗なのである。少なくとも只今、現在は――。

別に、ハシゴを外された気はしない。

思いつめたように硬い表情の支局長を見るだけで、責める気持にもならない。

むしろ（すべて、終わった）という、あっけらかんとした心境になってゆく。そんな急傾斜を、自分の中に許す気持さえわいてくるではないか。

「ヘタをすると、ケガ人が出る」と泉田はいった。たしかに、それは名言であろう。展望のない戦いに飛び出し、流れダマに当たれば、それは犬死といわれるかもしれない。

（すべて、終わった）

もういちど、低くつぶやいてみる。

長いようで短かい兵鉄との格闘――。そういえば、細川亜紀子とのことも「すべて終わった」になるのだろうか。

会議室の電話が鳴った。

しばらく応対していた松岡が、受話器を置くなり叫んだ。

「戸波さん、病院からです」

「病院？　どこの……」

「堂本俊夫が、さっき、息をひきとったと連絡がありました」

うっと、心の中で呻く。

電流に似たものが、背筋を走りぬける。

「あなたが、こんな目に遭わせたのよ」小さな唇をふるわして、病院の廊下で叫んでいた娘のしのぶの顔がひらめく。

「わかった」

声が、かすれていた。

「病院へ、行ってきます」

支局長に告げようとして、気がつく。支局長の瞳に、うるむものがあるのを……。

それを瞬きで隠しながら、支局長は「行け」と目で合図していた。

（つづく）

愛読者
サロン



★梅の便りも聞かれる今日この頃です。私は大連育ち、幼き頃育った大連のたたずまいが忘れられず、なつかしく思っていましたところ、フット大連も港町、神戸も港町、何か共通点があるのでは、という、フタリと神戸へ出かけてみました。三宮界隈の雑踏は避け、中山手の坂道を登りながらやはり考えにまぎらない事に気づきうれしくなりました。それから淋しくなりました。それをよく神戸をたずねます。

★幼時に神戸に来て、神戸で育って二十年。結婚と同時に神戸を離れて早や三十年たちました。長女が結婚し、末っ子が大学生になりました。今では、神戸を想う帰心、矢の様な気が

★発行にいろいろお世話いただいた方がた

安部 朝比奈 正 重 雄 隆夫
青木 野木 重 雄 隆夫
砂野 野木 重 雄 隆夫
石野 野木 重 雄 隆夫
榎野 野木 重 雄 隆夫
岡崎 野木 重 雄 隆夫
小曾 野木 重 雄 隆夫
嘉納 野木 重 雄 隆夫
嘉納 野木 重 雄 隆夫
柏原 野木 重 雄 隆夫
鴨井 野木 重 雄 隆夫
楠井 野木 重 雄 隆夫
小島 野木 重 雄 隆夫
小島 野木 重 雄 隆夫
小島 野木 重 雄 隆夫

津高 陳田 玉田 滝滝 角砂 塩新 白佐 雀坂 古後 上小
高橋 辺井 中宮 川中 南田 路谷 川藤 部井 林藤 林林
和 舜聖 健虎 勝清 猛重 義秀 昌時 喜末 英秀
一孟 臣子 操郎 彦二 一郁 夫民 孝雄 渥康 介忠 樂二 一雄

竹馬 準之助
外島 健吉
直木 親郎
西村 親郎
中巻 親郎
難波 親郎
野西 親郎
深井 親郎
松井 親郎
宮崎 親郎
光崎 親郎
百崎 親郎
元崎 親郎
行崎 親郎
神戸 親郎

★月刊神戸っ子を毎月お読みになりたい皆さま、また神戸を離れてお友達に、神戸の音をおとけにしたい方は、編集室までお申し込み下さい。さっそくお送りします。

6月分 一三〇〇円
1年分 一三〇〇円(送料共)

★月刊神戸っ子をお買求めの時には左の本屋さんへどうぞ。

甲南堂 国鉄本山駅北口
小原堂 国鉄住吉駅北口
北村堂 東灘区本山
南天荘 東灘区御影中町
文芸書房 東急六甲駅2階
ラウンズ 新聞会館1階
神戸図書 生田区古瀬通1



神戸っ子こあんない

★発行／50年4月1日
★編集・発行／小泉康夫
★発行所・神戸っ子編集室
神戸市生田区東町113の1
大神ビル7階
電話(331) 22446(代)
振替口座 神戸四五一九六
領価 200円

神戸っ子こあんない

編 集 後 記



★神戸の街の魅力を色んな角度からコーディネートしてみよう。これが4月の観光神戸のねらい。山・街・港・海・うまいもん・おしゃれ・お酒、世界中がコンパクトに集まるKOBÉ、陽気な人間性、東京、大阪、京都でない都会の魅力をこの春たっぷり楽しみたいだきま。

★宝塚の丸本先生宅へお伺いした日は、ちょうど歌舞団の生徒の卒業の日でした。緑の袴と手拭きすのの花束を持った乙女たちが、嬉しそうに歩いてました。

★池の面に花びらが「放」ラヒラと散った。風に吹かれて津がおり、花びらはゆらゆらゆらゆらと揺れている。ボクもゆらゆらゆらと揺れて花になったのだ。春の宵(『S』)

神戸のうまいもん&ドリンキング

★日本料理

讃岐名代うどん **あこや亭**
神戸市東灘区東灘通7-5 TEL 231-6300
トアロード店 TEL 391-2538
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食 **くれなゐ**
三宮生田新道沿側中央
KCBビル2F TEL 331-0494

がっばう **花くま**
神戸市生田区花崎町45
TEL 341-0240

鍋もの・おむすび **味噌・おはろ**
神戸市生田区北長狭通1丁目20 TEL 331-3848
三宮西口南口ビル TEL 391-5319

お茶漬・おむすび **ふる里**
神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 331-5535

たこ焼 **たちばな**
三宮センター街(旧福通) TEL 331-0572

北海道郷土料理 **蝦夷**
神戸市生田区中山手通1丁目115
生田区400番東門会館ビル1階
TEL 331-7270

和食料理 **婆娑羅(ばさら)**
神戸市生田区北長狭通1丁目118
三宮西口北側ビル(旧三宮ビル)2F
TEL 321-6363

★西洋料理

レストラン **アポロン**
神戸市東灘区八幡通5丁目6
TEL 251-3231

レストラン **皮(あらかわ)**
神戸市生田区中山手2-9
TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE **SAN-MON 三門**
神戸市生田区中山手通2丁目198-99
TEL 331-5817

ステーキハウス **れんが亭**
神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 331-7168

レストラン **セントジョージ**
神戸市生田区北野町1丁目130
TEL 242-1234

レストラン **男爵**
神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode

花屋 **数**
三宮アザラーロード市役所前
TEL 251-2109

鉄板タイル **きやんどの**
神戸市生田区北長狭通2-22
TEL 331-1183

レストラン **キングスアームス**
神戸市東灘区磯辺通4-61
TEL 221-3774

居酒屋 **井戸のある家**
生田新道新世紀南
TEL 331-5664

レストラン **ムーンライト**
三宮・生田新道
TEL 331-9554

車かき店 **和蘭陀屋**
三宮相模タカナービル
TEL 321-0230

タイル・鉄板焼 **月**
神戸市生田区北長狭通1-24
生田神社前 TEL 331-2509

BARBECUE & STEAK **六段**
生田区北野町3丁目11
TEL 331-2108

Regent House **SOFIA(蘇菲亞)**
神戸市生田区中山手通6丁目184
TEL 341-0638

レストラン **ハイウェイ**
神戸市生田区下山手2-20
TEL 331-7822

ビュッフェハウス **ピノッキオ**
神戸市生田区中山手2-101
TEL 331-354E

レストラン **フック東店**
神戸市生田区栄町1-5-3
TEL 321-3207

ピザ&スナック **ガルの店**
東灘区琴通5丁目1-7
西山ビル1F TEL 241-9025

ステーキハウス **グリル青山**
神戸市生田区中山手通2丁目112-2
(旧アール・ド) TEL 391-4858

ピザ&パブ **ピザ・パテオ**
神戸市生田区元町通1丁目49(元町1番街)
TEL 331-9378

RESTAURANT & BAR

ゴックスタッド

生田区山本通3丁目18 回教寺院前
TEL 242-0131

メキシコ料理 **ティファナ**
神戸市生田区中山手通1丁目4・12 パールコーポラスビル1F
TEL 242-0043

ドイツ風音楽レストラン **コーベ・ローレライ**
生田区北長狭通6丁目39
TEL 371-0086

★喫茶

宮水 **にしむら珈琲店**
中山手通・神戸市生田区中山手通1丁目170
TEL 221-1872・231-9524

セブスター街店・神戸市生田区二宮町2丁目35
TEL 391-0669
三宮・山本通2丁目9 TEL 242-2467
(平日制) 3F 事務所 TEL 242-1880

喫茶・レストラン **パロ**
神戸三宮センター街地下 TEL 391-1758
トアロード店 TEL 391-1210

喫茶 **ガーディニア**
神戸市生田区東町1110-1 天神ビル1F
TEL 321-5114

喫茶 **モーツァルト**
神戸市生田区中山手通2丁目198 グラン・デ・アル・シム1F
TEL 241-3961

カフェ **サポテン**
神戸市生田区中山手通2丁目1
(神戸女子大対面) TEL 241-7060

★club

クラブ **千**
神戸市生田区下山手通り2丁目21
TEL 391-1077

クラブ **飛鳥**
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331-7627

クラブ **小万**
神戸市生田区東門前中島ビル3F
TEL 391-0638・4386

クラブ **さち**
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331-7120

club **なぎ**
神戸市生田区北長狭通1丁目 TEL 331-8626

club **落(ぶ)ぎ**
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

club **ぶーげん**
三宮生田新道沿側中央KCBビル5F
TEL 331-8593

club **Moon Light**
三宮 TEL 331-0886・391-5690
山本 TEL 331-0415

club **るふらん**
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

★STAND & SNACK **ベルビュ・ドール**
神戸市生田区中山手通2丁目101 大洋ビル2F
TEL 321-5677

スタンド **英国屋**
生田区下山手通2-5 南野アスコ一棟
TEL 331-1100・331-6600

洋酒・スナック **雑貨屋**
生田区下山手通2丁目16の6
(生田新道和光ビル隣) TEL 321-0260

スタンド **グラムール**
生田新道和光ビル隣 TEL 331-4637

SNACK **MATSUMOTO**
神戸市生田区中山手通1丁目32-3
西門ビル1F TEL 241-3470

カクテル・ワイン **サ・ヴォ**
三宮山崎ビル2F TEL 331-2615

DRINKING IS AN ART OF LIFE **ウッドハウス**
神戸市生田区中山手通1丁目132
PHONE 078-241-7329

スナック **ビジービー**
神戸市生田区中山手2丁目
TEL 391-4582

居酒屋 **ボルドー**
生田新道沿側中央KCBビル5F
TEL 331-8575

Wine and something **珍地理屋**
神戸市生田区中山手通1丁目24-7
大和ビル2F TEL 242-0288

サ・ヴォ **神戸時代**
生田区中山手通1丁目125
三宮山崎ビル2F TEL 242-3567

スナック **る実**
生田区中山手通1丁目72
TEL 331-6985

洋酒の店 **キャンティ**
神戸市生田区北長狭通2丁目3
TEL 391-3060・391-3010

スナック & バンケット **キャンティ北店**
神戸市生田区下山手通3丁目8-9 TEL 331-3661

DRINK SNACK **スネカジリッ子**
神戸市生田区下山手通2丁目
永興ビル1F TEL 391-8708

Stand & Snack **サントノール**
三宮山崎ビル2F TEL 391-3822

Salon de roulette **サントノール**
三宮山崎ビル2F TEL 391-3822

スナック **でっさん**
神戸市生田区北長狭通1丁目258
TEL 331-6778

STAND **マシュケナダ**
生田区下山手通2丁目11の11(旧タカビル地下)
TEL 331-5587

スナック **GASTRO**
神戸市生田区中山手通3-20
トアロードビル TEL 231-0723

スナック **クラブ・ガーデニア**
神戸市生田区中山手通1丁目115
東門前中島ビル2F TEL 391-4329

スナック & バンケット **バス チャーリントン**
生田区北長狭通2丁目11(旧三宮ビル)
TEL 332-1125

スナック **比奈古多**
三宮山崎ビル2F TEL 331-2615

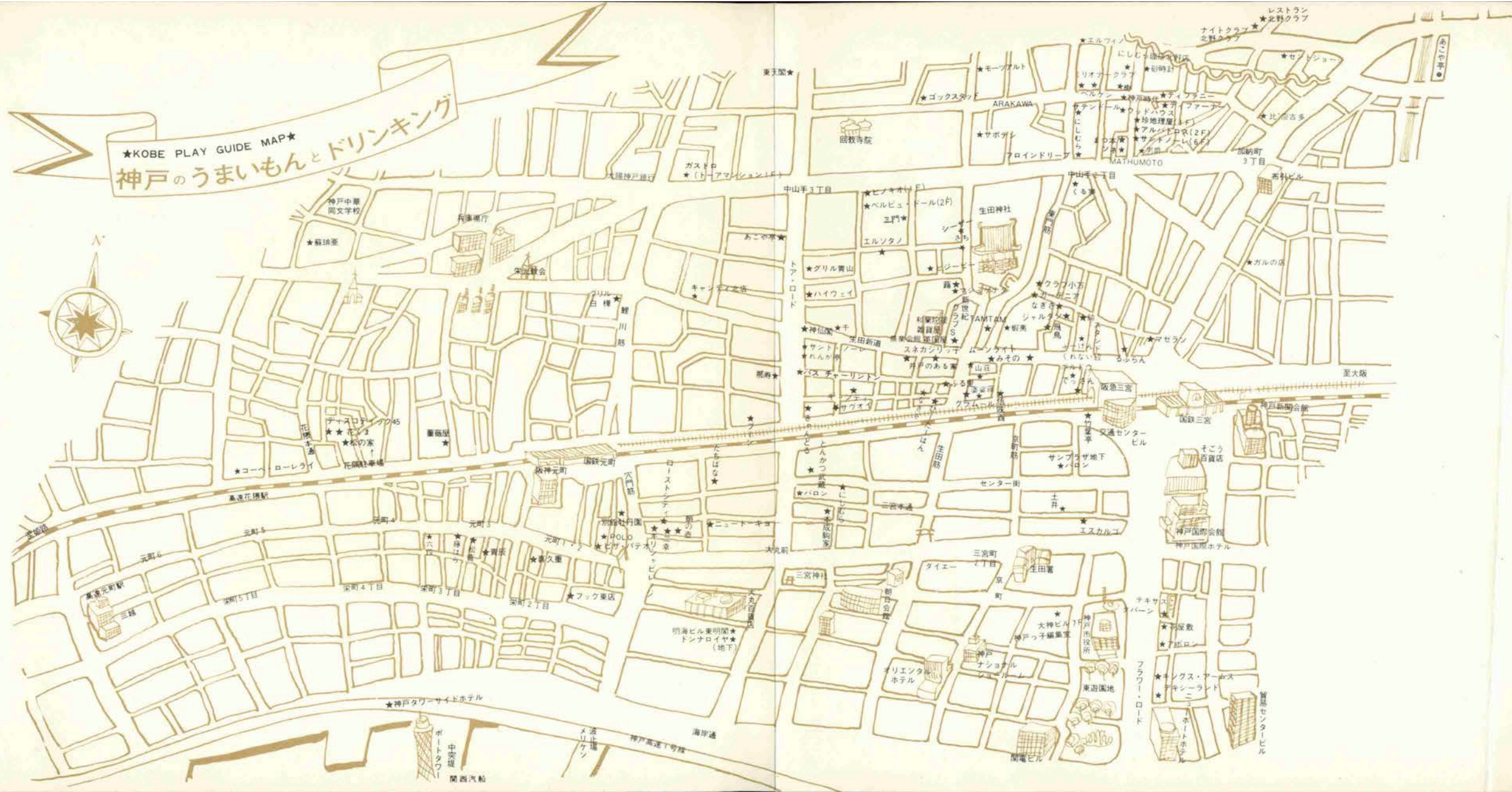
サ・ヴォ **アルバトロス**
生田区中山手通り1丁目24の7
大和ビル2F TEL 231-3300

スナック **エルソ・タノ**
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620

スナック **山荘**
神戸市生田区北長狭通1丁目22
TEL 391-5823

スナック **紋**
神戸市生田区北長狭通1丁目41 TEL 331-8858

★KOBE PLAY GUIDE MAP★
神戸のうまいもん＆ドリンキング





baLcon antique series BANJO

XXVII

大森 重志

(サントリー株式会社)

デザイン室・アートディレクター

大森さんがアメリカの音<BANJO>に魅せられたのは京美の学生時代「デキシーキング」を聞いてから。何とかあの音を奏でてみたいと思い日本製の安い楽器ではそのものの音がです。次々にアメリカから取りよせ、あの音が奏でられるようになったとか。

左はエビフォーン・コンサートスペシャルレコーディングの1930年代のもので、セルロイドのクラシックなペグヘッドのインレイが手づくりでとても美しい。右はパラマントスタイルC 1920年中頃の貝細工で天使や鳥がとても可愛い。「一日、三時間ぐらいいつのまにかBANJOの音を楽しんでますよ」とバロンのコーヒーを美味しそうに飲み、また弾き始めるミュージシャンだ。

カメラ・森田純夫
さんブラザバロンにて



バロン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんブラザ店
TEL 391-1758 AM11:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ センター街店
TEL 391-1375 AM10:00~PM 9:00迄

TOR ROAD

SHOPPING GUIDE

坂の街KOBEの代表的坂道トアロード。そしてまたこの道はエキゾチックな面影を残すショッピング坂道でもあります。

3331-2425、321-2435

紳士服にも流行があります。カラー・柄の幅などなど。この春はきれいなストライプがいろいろあります。そして、つまでも愛される柄のいい仕立てと。



紳士服飾

テラーウエダ

3392-2088(代)

神戸で手軽に本格的な日本料理が味わえます。老舗一富士が神戸の肉、兵庫のあんこ、そしてすばらしい料理をトアロードで。土曜(三三三)PM。毎水曜休。



ふあみりいれすとらん

さきがけ一富士

- 神戸クラブ★
- 大和田洋服★
- 三好理容所★
- マリナー★
- 草楽園★
- 伽廊★
- 東天閣★
- モンシェリー★
- 東海ビル★

- 北野小学校★
- 聖ミカエル国際学校★

西堀★

中山手3

- 中山手文庫★
- テラーウエダ★
- 神戸税務署★
- 藤井洋服店★
- あこや亭★
- フレア★
- ナカニシ★
- サカタ宝飾店★
- タムラ商会★
- 中国工芸★
- 西興公司★
- 香花村★

- キッサ東亜★
- 興南商店★
- 白石美陶店★
- 幸昌洋服店★
- 明治生命★
- 西野商店★
- ウサミ印刷★
- セリヌ★
- シンコー★
- フラウ★
- マルイチ★
- アメリカン★
- ファーマシー★
- 日本タイプ★
- 丸善不動産★
- ユリヤ理容★

- トモサダ★
- まるきや★

KKBK教室

山本通

- チャーム★
- ローレル★
- 三宮写真室★
- 関西華僑基督教教会★
- NHK★

中山手2

- 森永チョコ★
- タバコ会館★
- マール美容室★
- 神戸光音★
- 盛洋洋服店★
- 川北外科医院★
- アロン絵画★
- ジョー洋服店★
- グリル青山★
- 神戸装飾★
- 東京銀行★
- ハイウェイ★
- チャーター銀行★

生田新道

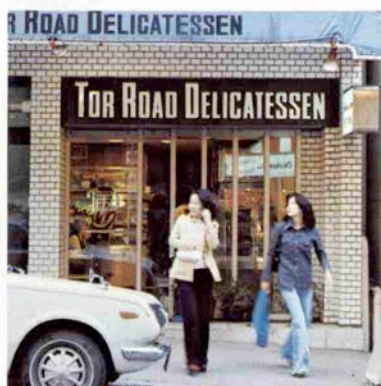
- 山口銀行★
- グランド洋服店★
- セントラルペーカリー★
- クレージュ★
- トーエイ★
- サントノーレ★
- れんが亭★
- 深沢興業★
- AVON★
- 神戸ダイヤモンド★
- 真紀洋服店★
- マキシン★
- バスチャールトン★
- デリカテッセン★



TEA & DRINK

サントノーレ

トアロード昼と夜のいいこのサロン。サントノーレのTEA TIMEのご紹介をしましょう。三三三(三三三)PMはコーヒーの香りがたまり、夜とはひと味ちがうムードです。毎水曜日は休み。ピッツアもおいしいよ。



世界の食料品

デリカテッセン

何もかもが本格的な手づくりの味。スモークサーモンをはじめハム、ベーコン、ソーセージなどファンが多い。奥のサンドウィッチコーナーで、豊かな風味が味わえます。3331-6535

重厚な中にも優雅な味わいを持つ英国調・スタイル家具の
の伝統がいまも生きている手造りの高級家具。そして赤や緑
や白木が美しいファッショナブルなインテリア。手づくりのよ
さが味わえるインテリアサロンです。
☎391-0535



インテリアサロン
不二屋

ヨーロッパファッションの主流をとりいれたユニークな
メカネティックが誕生しました。ファッショングラス
とサングラスがとて素敵です。一度のぞいてみるべし。
☎391-3164



FASHION OPTICA
モリカワ

- キール
- エスター
- ニュートン
- ケンタッキー
- フライドチキン
- 阿摩洋服
- クロス
- カウムラ
- 那那
- コリンパン
- 好日山荘
- ワシ
- 亀乃井亀井堂
- つるや靴店

至元町

- 一富士
- 不二屋
- キャビン
- ドンク
- マック
- ヤノスポーツ

センター街

- 雲夢
- 合同タイプ
- ハセガワ
- 八千草
- KOBE OXFORD
- まんだらや
- 鶴屋
- 亀乃井亀井堂
- トーホーストア
- 赤のれん
- いさかわ
- ミヤムラ
- 坂本宝飾店
- カミネ時計店

- モリカワ
- 宇佐美印刷
- 伊藤製菓
- スキャ
- キヤ
- ちから餅
- 東
- 西
- 南
- 北

- マーキュリー
- 誠進カメラ
- カミヤ
- みよしや
- みよしの
- アゾマ
- 重
- 大

- ★西川
- モンテ
- ビレイカ
- 源興洋服店
- タカタ宝石
- 伊藤家具店
- ニューフロント
- らんぶる
- 萬秀園
- 毎日新聞
- きやんごる
- 岡々堂
- 拓殖塗料
- クイン靴店
- 三友商事

至三宮

- どんかつむかし
- ローレル
- モトヤ
- ファミリア

センター街

- ★美登利屋
- ★ヒカリ
- ★毛利マート
- ★部屋
- ★ドンク
- ★神和信用金庫
- ★パロン

三宮本通

- ★河内工芸社
- ★ん
- ★SONY
- ★パウルスタ
- ★日興証券

- 三宮神社
- 大



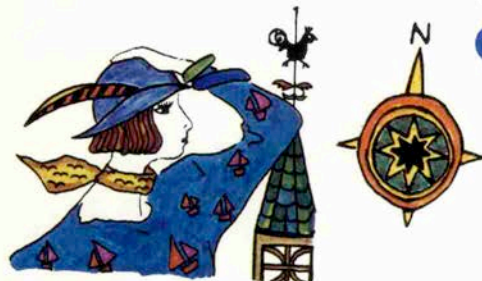
コーヒー & アンティーク
ん



COFFEE SHOP
バロン

余りに働きすぎるとかへって良い仕事ができない
心身ともにひとやすみ
ここならそれができます
珈琲ん
☎391-1589

坂道を歩きつられてちよつとひと休み。一杯のコーヒー
がとておいしい。ゆつたりくつろげるパロンはそんな
お店です。
☎391-1210
11:00AM ~ 6:00PM



トアロードの話

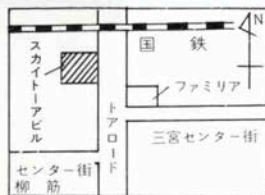
戦前のトアロードの話をしましょう。
今の姿からはちょっと想像できませんが、昔はもろ
と静かで優雅で、車の出入りも少なく、パリのランタ
ンがとてそれはすばらしい散歩道だったんですよ。
でも、昔からトアロードといえば新しいファッショ
ンをつくっていくところとして東京から来たお客さん
も一番最初にこの通りに立ち寄ったそうです。

歌・マヴィイ (私の人生)

「音楽の家」エトワをこのたび開店いたしました。自分自身のステージを創ってみたく、又皆様に聞いていただきたい願いをこめて生み出した私の夢の店です。どうぞ、ぜひ一度おいでくださいませ。

堀 郁子

“音楽の家”



CAFÉ VIN ET WHISKY
“音楽の家”

ET エトワ **TOI**

営業時間 AM11:00・PM11:30
トアロード三宮センター街西入口
スカイトーアビル3F
☎ (078)332-1755

CLUB S はおかげさまで17周年の春を迎えました。



CLUB
décorée de dessins

S
クラブエス S&Fビル 2・3F
神戸・生田区下山手通2-6
CLUB・S ☎321 - 4080

4月4・5・8日はクラブSの17周年記念
ウィーク。お越しのお客様におみやげをご
用意いたしております。



SATIN DOLL

生田区中山手通 1 丁目 57

☎ 242-0100



DRINKING IS AN ART OF LIFE 生田区中山手通 1 丁目 32

WOODHOUSE

山内ビル

☎ 241-7320

KOBE DRINKING GUIDE

山崎
ステーキハウス

生田区中山手通 1 丁目

前川ビル 1F

☎ 391-3335



スナック &
ドリンク

姫

生田区中山手通 1 丁目 18

☎ 221-1950



★三宮の雑踏を離れた中山手にある若者の店。それが“サテンドール”です。豊富な洋酒と気のきいた食事が楽しめるジャズの店。この15日からは宮原透トリオ（ピアノ、ドラム、ベース）が迫力のある素晴らしいジャズ演奏をきかせてくれる。ハートをゆるがすブレイに耳をかたむけながら、友だち同士や恋人と楽しいひとときをお過ごしになりませんか。また、パーティー、クラス会、結婚披露宴など25～50名ほどの会合もご予約1人3,000円で食事つき、飲み放題でできる。

☆G & G ¥300 BEER ¥300 BOIS FIZZ ¥400 CUTTY SARK ¥500 SUNKISTフレッシュジュース ¥400 スパゲティ ¥300 ピラフ ¥300 スूप ¥400 サンドウィッチ ¥300～ サラダ ¥400～ エビコロッケ ¥500 チキンバスケット ¥500 ハンバーグ ¥500 ビーフシチュー ¥1,000 エスカルゴ ¥1,000 最上オノミステキ ¥1,200
6:00P.M.～4:00A.M. 年中無休



サテンドール

ウッドハウス



KOBE DRINKING GUIDE



ヤマサキ

ヒメ



★本当の食通の人は、生半可な味では納得できず、満足の行く味に出会うまで捜し続けるものです。そんな人でも、ステーキハウス“山崎”の味には、成程とうなづかれています。味が一番大切ですが、落ち着いた雰囲気も“山崎”にはあります。取り揃えているワインを楽しみながらゆっくりと食事ができます。また、あらかじめ予約をしておくと奥のボックス席が利用できます。三十名様ほどのパーティーなどにも最適です。また、カキなど季節の料理もあります。家族づれ、友人同士、グループなどの会合にぜひご利用下さい。

☆最上級神戸肉ステーキ ¥5,000 サーロインステーキ ¥3,000 テンダーロインステーキ ¥3,000 車海老のバター焼き、アワビのバター焼き、ビール ¥300 ボトル (OLD) ¥5,000 ボトル (ホワイトホース)、ボトル (カティサーク) 各 ¥7,000
5:00P.M.～2:00A.M. 日曜日休み

★4月。桜の花びらが舞い、親しかった友との別れ、そして、新しい友との出会いの季節です。コートや上着を脱ぎすててセーター姿でまちへとび出せば、心うきうき、ホラ、今日も何かステキなことが起こりそうそんな気分になります。

“ウッドハウス”にも春がやって来ました。店のおもてで、ふと見あげる夜空の星も心なしか暖かそうにまたたいています。グラスを合わせ肩よせ合って、友だち同士、恋人同士、見知らぬ者同士、幸せな春の日を“ウッドハウス”で楽しもうではありませんか。

☆営業時間が変わりました。平日/午前8時→午前4時30分、日曜/午後6時→午前12時、年中無休
コーヒー ¥150 紅茶 ¥150 ピラフ ¥250 サービランチ ¥300 ビール(小) ¥300 水割り(OLD) ¥400 フィズ ¥500 おつまみ ¥100

★気に入った新しい店を見つけると、とても喜しくなつて、すぐに友だちに知らせたくなる。しかし、自分だけの秘密にしたいこともあるし、悩むことがある。スタンド&スナック“姫”もそのような店だ。上品なムードがステキだし、さらにママをはじめかわい女性が多いのが嬉しい。男というのは美人が傍に居ればそれだけで幸せになる性のない人種なんだが、“姫”のこじんまりとした店内にはそんな男たちがグラスをかたむけている。ママにきくと、ふらりと立ち寄る人は少なく、常連に紹介して貰って来る場合の殆んどだということだが、そういうところにも“姫”の持ち味がうかがわれる。

☆ボトル (オールド) ¥6,500 ボトル (ホワイトホース、カティサーク) ¥8,000 水割り (オールド) ¥500 ビール ¥400
6:00P.M.～0:00A.M. 日曜祭日休み

さくら

三浦照子

四月は約束の

みえない えにしの糸にひかれて
はなの下にたてば

空を忘れるほどの はなの暈^{かさ}に

逢うひとの 面影も 朧^{おぼろ}ろな

いちめんの さくらしいろ

さくらしいろに 燃えたって

追うてきたのに おとこよ

あの うつつないまでの やさしさは

わるい 夢であつたのか

散るはなに かえることばの

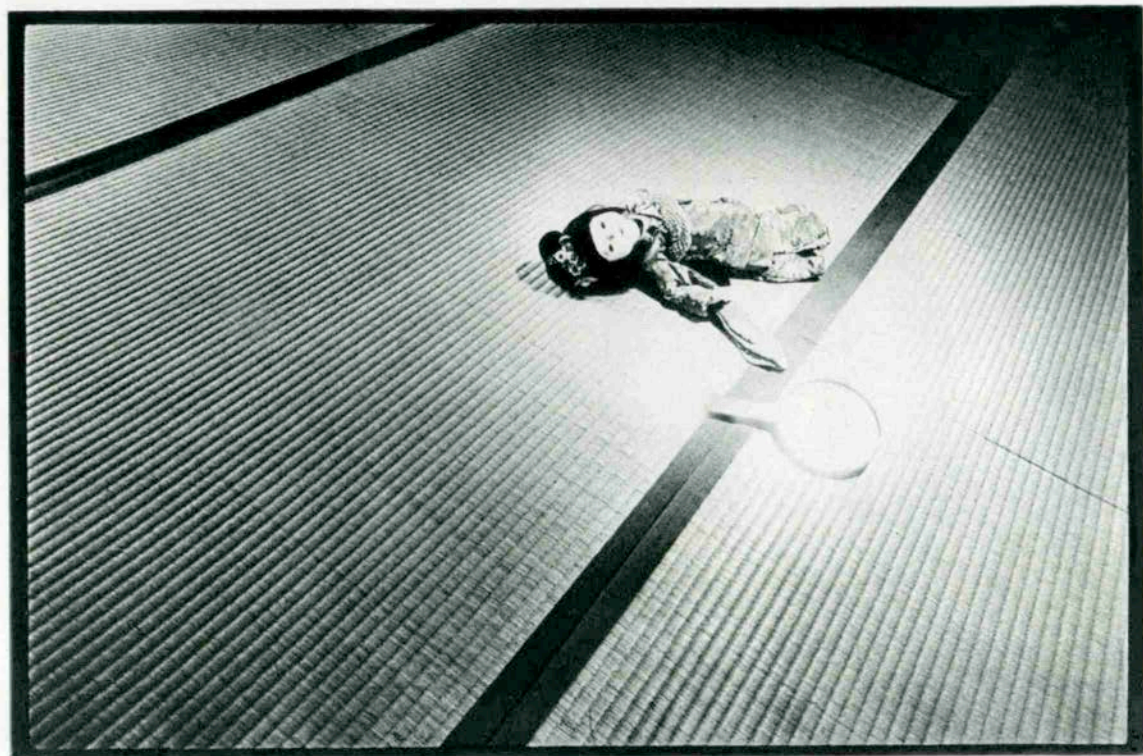
絶ちきれぬ おもいであつたのか

せつない血のいろ のこす

誓紙証文の かずかず

みじんに刻んで きょうの さくら吹雪

ふんでいく さくらしいろの つまさきで



PHOTO/藤原保之